



震 災から2ヶ月。私たちは、復興を目指すなかで、さまざまな人を見てきました。

支援物資を届けてくれる人。ボランティアで医療救護活動、心のケアなどを行っている医師や保健師。災害瓦礫を、ボランティアと協力し合い片付けている人。全国から届くたくさんの支援物資に感謝の涙を流す人や、炊き出しで提供される温かい食事に感謝の笑顔を見せる人。全国から復興のために集まった自治体職員。

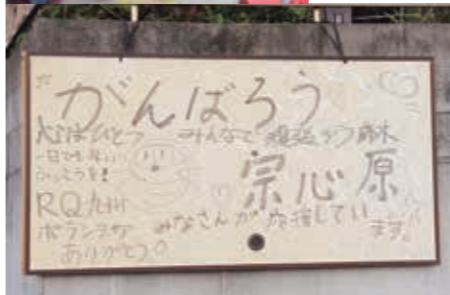
あるボランティアの人が「つらいとき、苦しいときに助けてくれ

るのは、お金やモノだけでなく、人と人のつながり」と語ってくれました。

この御船、熊本の復興のために、多くの人が駆けつけ、町民と語り合い、触れ合い、協力してくれています。そこにあるのは確かなつながりです。

今、私たちは個人から行政まで、さまざまな人とのつながり、支えられています。

本当の復興はこれから。昨日より今日、今日より明日、一歩でも前に進めるよう、そして「日常」を取り戻せるよう、みんなで助け合いましょう。



被災者に伝わる 復興へのエネルギー

平成28年熊本地震の発生を受け、御船町社会福祉協議会は4月29日、災害ボランティアセンターを設置しました。

センターは主に、ボランティアの受け入れや、被災した町民からの依頼を受ける役割を担っています。センターを設置してから、これまで全国から約3千人のボランティアが町を訪れました。ボランティアは主に室内の片付け、がれきやブロック塀の撤去、災害ゴミの搬出・運搬など。現在は平均で、平日100人、土日は200人程が来ているそうです。

「ボランティアに来られる方に共通しているのは、ボランティアに取り組む姿勢です」と話すのは、センター長の上村さん。県社会福祉協議会の指導のもとセンター運営の土台を作り

ました。現在は、社会福祉協議会中国ブロックから駆け付けた応援スタッフと共に、センターを運営しています。

「彼らからは、自分たちができることがあれば手伝えたい、被災地のために何かしたいという思いがひしひしと伝わってきます。依頼する人のなかには、一人暮らしの人や高齢者もいて、涙を流してお礼を言う人もいます。思いは被災者に伝わっている。そう感じます」

ボランティアのエネルギーをもらい、これからは職員一同頑張ります、と意気込みを見せるセンターの職員。

現在は主にハード面で活動していますが、いずれは復興支援センターに名称を変え、精神面での支援をメインに活動する拠点にしていく考えとのこと。



左：社会福祉協議会会長 本山浩二さん
中央：災害ボランティアセンター担当 中島直子さん
右：社会福祉協議会事務局長 上村良親さん
(災害ボランティアセンター長)

御船町ボランティアセンター

- 開設日 平成28年4月29日
- 場所 町民グラウンド南側駐車場
- 活動内容 ボランティアの募集
ボランティアの依頼受付 など
- 受付時間 電話 9時～16時
FAX 24時間
- 依頼先 ☎070-3160-2396
☎070-3152-3656
FAX 282-7895

